

TICAD 7「官民ビジネス対話セッション」・安倍晋三日本国総理大臣ご発言

令和元年 8 月 29 日、パシフィコ横浜

皆さま、ご参集、ありがとうございます。

ナイロビでの TICAD VI から 3 年で、最大の進歩は、「アフリカビジネス協議会」の発足です。

TICAD は、生まれ変わりました。

私たちの New TICAD は、ダブル E ダブル I、すなわちアントレプレナーシップとエンタープライズ、インベストメントとイノベーションを高めへ持ち上げます。

タンザニアの、電気のない家々が、夜の灯を手に入れつつあります。

この国に何千とある小店舗、キオスクに行くと、ソーラーランタンを借り出せます。昼間貯めた電気で灯る LED の灯りは明るくて、煤煙を出すケロシン・ランプと大違いです。

1100 を超えるタンザニアのキオスクでソーラーランタンのレンタルを実施し、連日、数万人が借りにくるまでに育てた会社。それが東京の WASSHA です。

創業 CEO は、この方、秋田智司さんです！

秋田さんに着目したのが、日本で有数のユーティリティ会社、関西電力です。京都や大阪の、発電とグリッドを賄う巨大企業が、今度 WASSHA と組みます。

関電は WASSHA に、大量のランタンを提供し、WASSHA はそれを配って、ランタン・レンタルを手がけるキオスクを 1 万店に増やします。関電には、レンタル料の一部が還流するモデルです。

夜が明るくなって、本が読めると喜ぶ子供たちの笑顔を思い出しましょう。

10 万単位のユーザーと、1 万店舗のアウトレットは、ビッグデータを生み、それがまた未知のビジネスを生んでいくでしょう。

秋田さんのような起業家に腕を揮ってもらうため、政府は何をすべきか。

日本政府が問う問いは、この一点に集約されます。

ひとつには、ヒトづくり。また、質の高い、インフラの提供。

そして資金を手に入れやすくすることでしょう。

JOGMEC、貿易保険の NEXI、それに JICA も、現地の力を借りながら、使い勝手のいいファイナンスを提供します。

相手国が借金漬けになったら、皆さまの進出を妨げます。

重点国を毎年 10 カ国選び、向こう 3 年、延べ 30 カ国の担当者に、公的債務や、リスク管理の研修をします。

ガーナとザンビアには、債務管理とマクロ経済運営のアドバイザーを送ります。

アフリカにとって重要な農業の競争力をつけるにも、日本政府の出番はあります。

日本の地方自治体で活躍した農業専門家には、アフリカのためならと、腕を撫す人が少なくありません。そんな方々に、これから現地へ行っていただきます。

2030 年までに、各国と協力しつつ、アフリカ全土におけるコメの生産量を今の倍、5600 万トンにしたいと考えています。

私には、3 回目の TICAD です。皆さまが主役となった様子を見て、勇気づけられました。

アフリカには、仕事のしやすさで、世界有数の地位に躍り出た国がありますし、市場規模は拡大の一途。大陸全土が巨大経済圏になる日が見えています。

AU には、野心に満ちた長期計画があります。目標年は 2063 年。

今、二十歳台の方には、ご自身の目標にできる未来です。

さあアフリカへ。可能性の大地へ。皆様の勇躍を、強く念じてやみません。

ありがとうございました。

了